



2016年度上期 決算説明会

2016.11.14

明治ホールディングス株式会社

1. 2016年度 上期総括
2. 2016年度 下期・通期見通し
3. 「STEP UP 17」戦略の進捗：
課題に対する下期以降の取り組み

- ・ 本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

STEP UP¹⁷



基本方針

成長の加速とさらなる収益性向上

1. 優位事業の強化と新たな成長への挑戦
2. 環境変化に対応しうる収益力の強化
3. グローバル展開の推進
4. 経営基盤の進化

(単位:億円)

		16年度 上期計画	16年度 上期実績	計画比	前年同期比
連結	売上高	6,060	6,067	+0.1% +7	+2.4% +144
	営業利益	325	373	+14.8% +48	+11.7% +39
	営業利益率	5.4%	6.2%	+0.8pt	+0.5pt
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	235	243	+3.5% +8	△26.6% △88
食品	売上高	5,295	5,352	+1.1% +57	+3.5% +181
	営業利益	310	388	+25.2% +78	+35.1% +100
医薬品	売上高	773	721	△6.7% △51	△5.3% △40
	営業利益	18	△13	— △31	— △62

- 上期純利益は、為替の影響などによる営業外収支の悪化、前年同期に計上した固定資産売却益の影響などにより、前年を下回った

営業利益増減分析

(億円)

食品セグメント

15年度上期

287

・退職給付費用増
・SKU削減によるマイナス影響

△17 : 特殊要因によるマイナスの影響

+16 : 原材料調達コスト減

+31 : 効率化によるコスト削減効果など

+71 : コア商品の売上成長

16年度上期

388

計画比 +78

医薬品セグメント

15年度上期

49

△42 : 薬価改定の影響

△38 : 一時金支払いや普及費増

+18 : 既存品・新製品の数量増、子会社の業績拡大

16年度上期

△13

計画比 △31

食品

- 付加価値の高いコア商品の強い伸びが続く
- 構造改革の取り組みは継続

医薬品

- 薬価改定と一時金支払いが上期業績に響く
- 新規発売品目の普及活動に注力

ガバナンス

- 社外取締役の増員、社外役員のための定期会合
- 長期ビジョン策定に向けて活発な議論進む

下期の 課題

- 外部環境が変化中でのマネジメント
- 構造改革の深耕

2. 2016年度 下期・通期見通し

(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
連結	売上高	6,067	+2.4% +144	6,442	+2.0% +127	12,510	+2.2% +272
	営業利益	373	+11.7% +39	441	Δ0.4% Δ1	815	+4.8% +37
	経常利益	360	+1.4% +5	439	Δ5.0% Δ23	800	Δ2.2% Δ18
	親会社株主に帰属 する当期純利益	243	Δ26.6% Δ88	281	Δ4.3% Δ12	525	Δ16.1% Δ100
食品	売上高	5,352	+3.5% +181	5,435	Δ0.1% Δ7	10,787	+1.6% +173
	営業利益	388	+35.1% +100	340	Δ14.0% Δ55	728	+6.6% +45
医薬品	売上高	721	Δ5.3% Δ40	1,025	+16.0% +141	1,746	+6.1% +100
	営業利益	Δ13	— Δ62	103	+99.5% +51	90	Δ11.1% Δ11

(単位:億円)

		上期実績		通期計画	
			前年同期比		前年同期比
連結	設備投資額	233	Δ3.4% Δ8	566	+33.6% +142
	減価償却費	221	+12.2% +24	452	+7.6% +31
	研究開発費	125	Δ2.8% Δ3	265	Δ2.6% Δ7
	フリーキャッシュフロー	39	Δ91.6% Δ425	210	Δ78.0% Δ743
	有利子負債	1,444	(前期末比) Δ2.3% Δ33	1,400	Δ5.3% Δ78
	ROE	—	—	12%	Δ4.1pt
	1株あたり配当金	45円	+17.5円	90円	±0円

- 前年度の固定資産売却の影響でフリーキャッシュフローは減少
- 主な投資：
 - ・食品新研究所の建設
 - ・プロバイオ、チョコレートの生産能力増強
 - ・メドライクでの日本向け製剤生産体制の構築

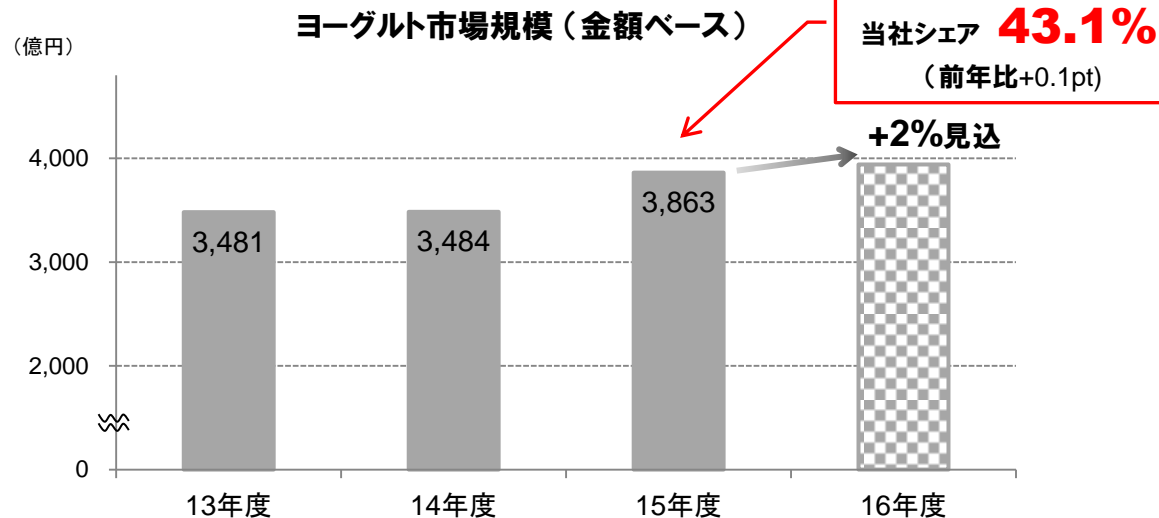
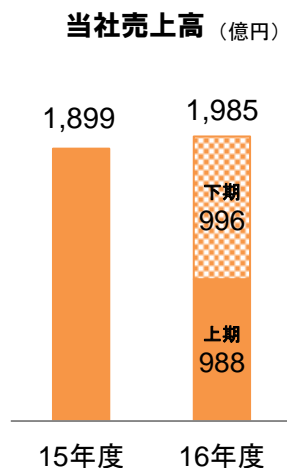
(注1) 投資額は無形固定資産、戦略投資を含む支払いベース

(注2) 減価償却費は無形固定資産も含む

(注3) 上期配当金の前年同期比は、2015年10月1日に実施した株式分割を反映して計算した金額

(注4) 計画は2016年11月9日発表

3. 「STEP UP 17」戦略の進捗： 課題に対する下期以降の取り組み



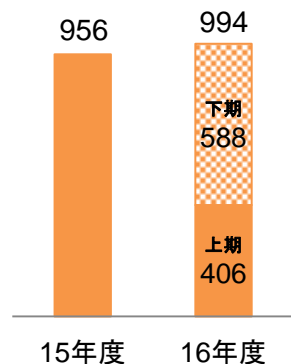
着実にプレゼンスを向上させ、市場拡大をけん引

- エビデンスを活用したマーケティングの強化
 - ・ リピート購入の促進
 - ・ 新商品の早期市場定着
- プロバイオの増産投資で、安定供給体制を実現
(ドリンクタイプ1ライン、投資額 約50億円)



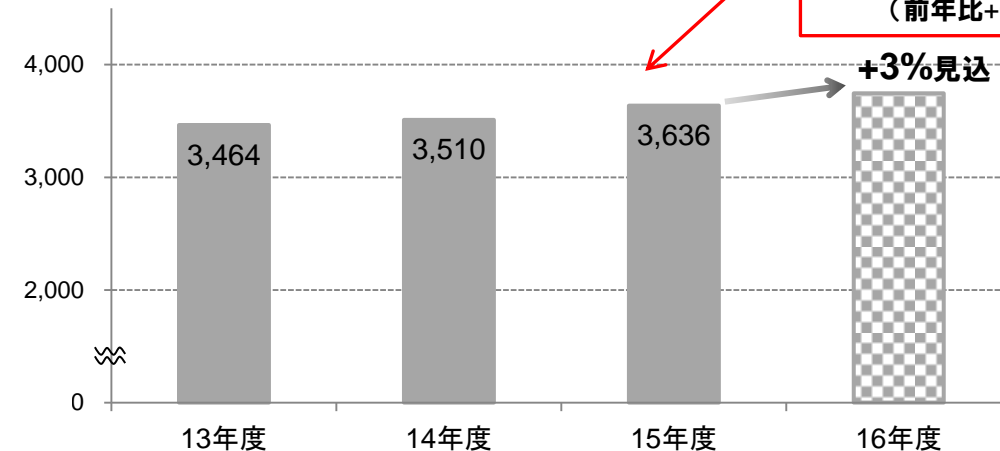
- 【左から順に】
- ・ 明治プロビオヨーグルトR-1 (グレープフルーツミックス)
 - ・ 明治プロビオヨーグルトPA-3
 - ・ 明治ブルガリアのむヨーグルト (グリーンフルーツミックス)

当社売上高 (億円)



(億円)

チョコレート市場規模 (金額ベース)



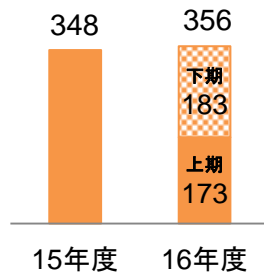
「健康」「プレミアム」を軸にした成長

- カカオが持つ健康価値の普及・啓発活動の強化
- 「チョコレート効果」は能力増強し、さらなる拡大へ (投資額 約5億円)
- リニューアルした「The Chocolate」を定着させ、プレミアム市場を創造

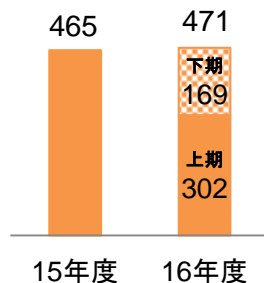
The Chocolate
【全4種類】

チーズ

当社売上高 (億円)

ナチュラルチーズを中心に拡大

- チーズ市場は成長続く
- 「明治北海道十勝」シリーズのマーケティング強化
- カマンベールは増産投資を決定、さらなる販売拡大 (18年度上期に生産開始予定、投資額 約90億円)

明治北海道十勝
カマンベールチーズアイス
クリーム強いブランドに経営資源を集中

- 「明治エッセル」は基幹品を中心に展開
- 「GOLD LINE」はラインアップ拡充



GOLD LINE シュガーコーン

業務用
商品付加価値の追求

- クリームやカカオなど競争力のある分野に注力し、その他食材の一部は子会社に移管

ドライバー不足や当社商品の物量増などを背景にした
物流コストの上昇懸念

- 配送ルートの見直しなどを含めた
全社的な物流効率化推進
- 投資を伴う物流拠点の最適化

物流拠点の最適化

中部地区

- 物流拠点を5か所から1か所に再編
- チルド品と常温品の共同配送
- 投資額 約26億円

関東地区

- チルド品の物流拠点を再編
既存工場敷地内の倉庫を
拡張して集約
- 常温品の物流最適化に着手

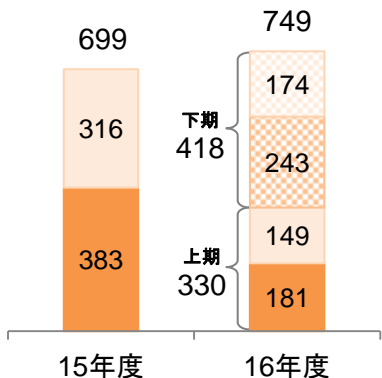


関東地区のチルド品物流倉庫

● 売上高の大きい中国と米国は、現地通貨ベースで成長

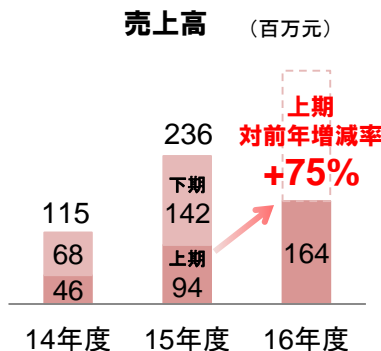
海外売上高 (億円)

持分法適用会社+非連結会社
連結会社+輸出



着実な売上成長の実現

【中国】牛乳/ヨーグルト



- 華東エリアでの取扱店舗数の拡大 (高級スーパー、コンビニ)
- 販売エリアの拡大

米国で展開する
明治ブランドのチョコレートスナック例



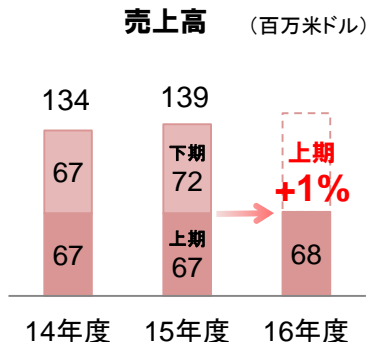
Hello Panda



Yan Yan

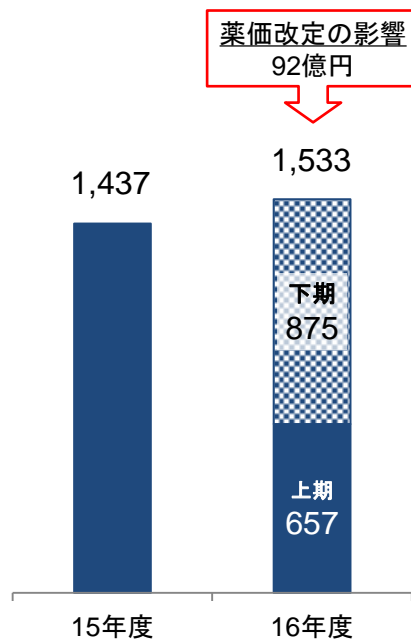
【米国】菓子

収益改善進み、付加価値追求へ



- 明治ブランド品の現地生産による機会ロス低減と売上拡大
- 販売ルート活用などのシナジー創出

医療用医薬品事業
売上高 (億円)



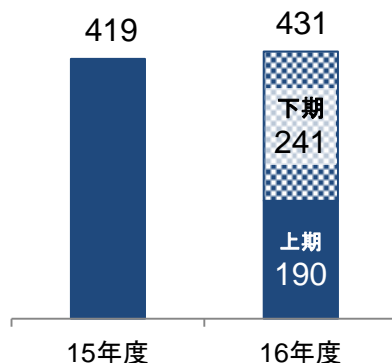
新規発売品目の定着

- 統合失調症治療薬「シクレスト」(舌下錠)
有効性を訴求し、処方定着へ
- COPD治療薬「ウルティプロ」
重点診療科に向けた普及活動の強化
- アレルギー性疾患治療薬「ピラノア」(一般名 ビラスチン)
下期発売予定、早期の市場浸透を目指す
- 抗菌薬「タゾピペ配合静注用明治」(GE)
ジェネリック促進の環境下で、高品質・情報提供力・安定供給の強みを生かした展開

既存品の拡大

- 抗うつ薬「リフレックス」
普及強化で製品価値を最大化
- 先発品とジェネリックの総合的な処方提案

海外売上高（億円）

海外
比率

25%

25%

(注) 海外売上高は、単体の輸出事業および連結対象となっている海外グループ会社の売上高(消去後数値)

海外市場での売上拡大

- 中国、インド、ASEAN地域での重点品目（メイアクトなど）の拡大
- グループ会社間やパートナー企業との連携強化

メドライクでの日本向け製剤生産

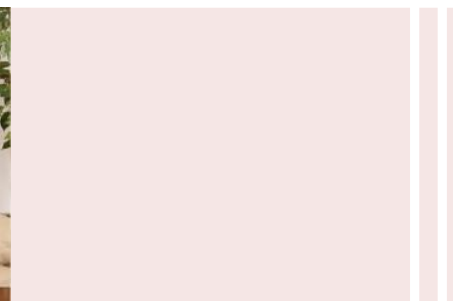
- 3月に着工した Unit 7が完成
日本向けに年30億錠の生産能力を整備
(初期投資額 約20億円)
- 17年度からの供給開始に向けて、準備は着実に進行



メドライク社(インド)の Unit7



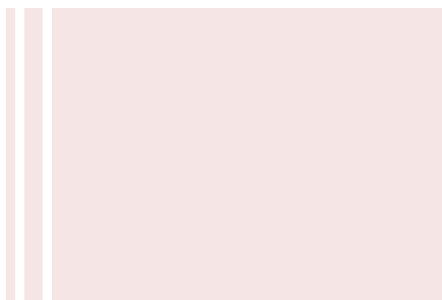
		現在のパイプライン (◆自社創薬)		16年度	17年度
医療用医薬品	感染症	ME1111【爪真菌症治療薬】◆	(PI/II 終了し、検討中)		
		ME1100 アルベカシン【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】◆	Phase I (海外)		
		OP0595【β-ラクタマーゼ阻害薬】◆	導出		
	中枢神経系	SME3110 フルボキサミン適応拡大【強迫性障害治療薬(小児)】	申請		
		ME2112 ジブラシドン【統合失調症治療薬】	Phase III		
		ME2125 サフィナミド【パーキンソン病治療薬】	Phase II/III		
		リフレックス適応拡大【線維筋痛症治療薬】			
	新領域	レザフィリン適応拡大【食道癌治療薬】	承認		
		SP-02L ダリナバルシン【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬】	Phase II		
		DMB-3111【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】	(PI 終了) 導出		
		DMB-3113【アダリムマブ(ヒュミラ バイオ後続品)】	Phase I		
	生物産業	農薬	ME5382【殺虫剤】◆	申請	
ME5343【殺虫剤】 BASF社とライセンス◆(当社と北里研究所との共同研究で発見)			申請 (海外)		
ANM-138【殺虫剤】			申請		
農業用殺菌剤 Dow AgroSciences社と共同開発◆			申請 (海外)		承認



ioo

YEARS YOUNG

おかげさまで100周年

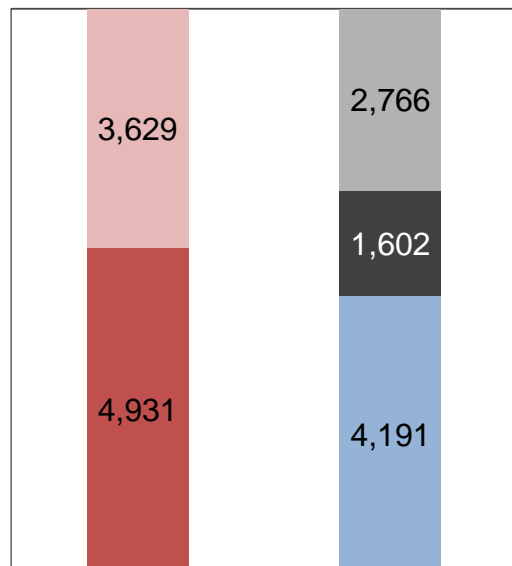


meiji

参考資料

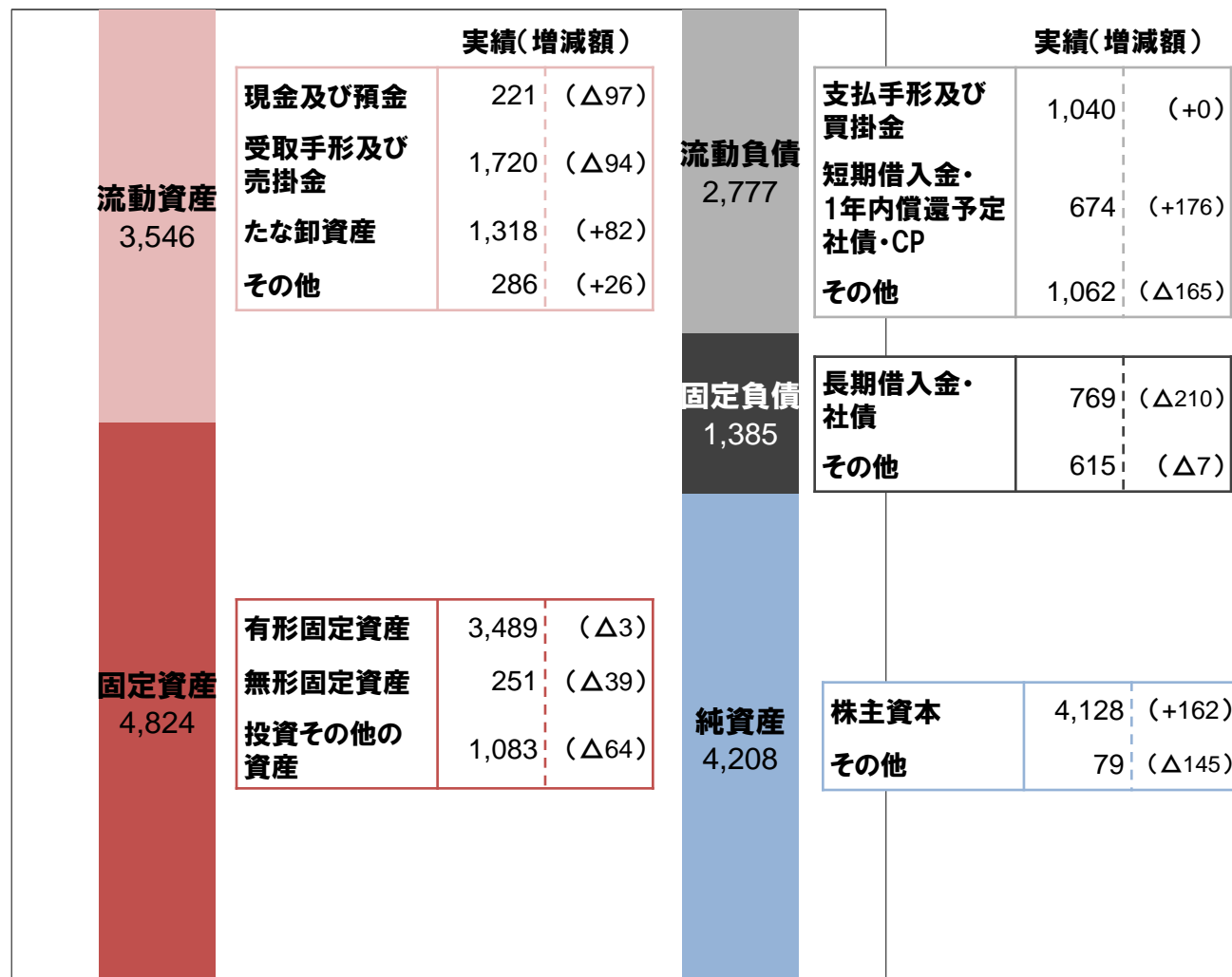
2016年度 上期財政状態

2016年3月末 総資産: 8,561億円



自己資本比率: 47.8%

2016年9月末 総資産: 8,371億円



自己資本比率: 49.3%

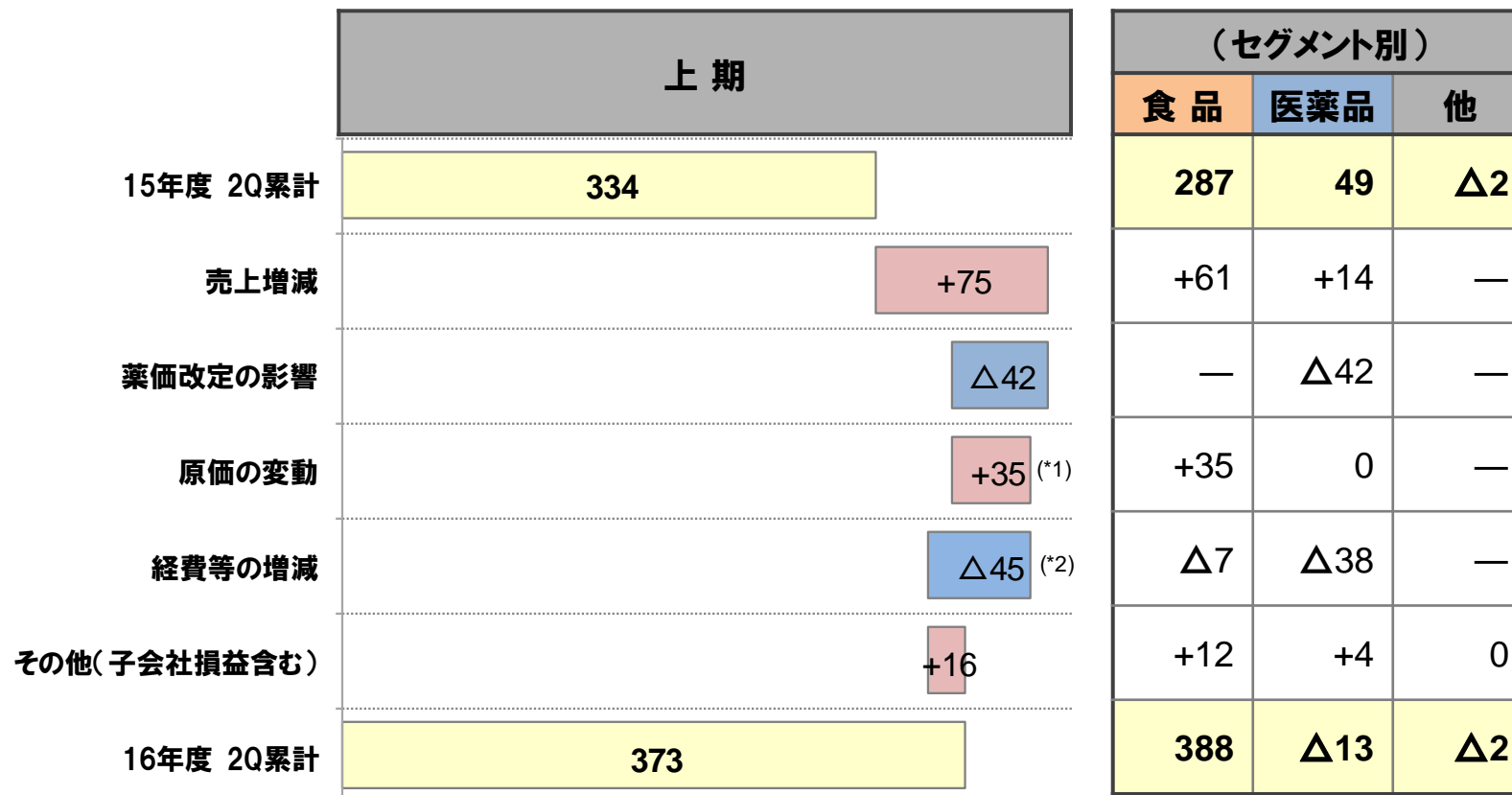
(単位:億円)

		1Q	2Q	上期	
連結	16年度	売上高	3,010	3,057	6,067
		営業利益	220	152	373
		営業利益率	7.3%	5.0%	6.2%
	15年度	売上高	2,931	2,991	5,923
		営業利益	168	165	334
		営業利益率	5.8%	5.5%	5.6%
	14年度	売上高	2,736	2,855	5,592
		営業利益	107	82	189
		営業利益率	3.9%	2.9%	3.4%

- 例年2Qは、1Q比で営業利益率が低下
 (主な理由) 発酵デ일리事業の商品構成、チョコレートの非需要期 等
- 14・15年度に比して16年度1Q・2Qの利益率の差が拡大したのは、1Qのプロバイオとチョコレートの伸長が著しかったため

2016年度 上期営業利益 増減分析

(単位:億円)



*1: 主な内訳 … **【食品】** 海外乳原料+13、商品政策等+10、生産効率化等+6

*2: 主な内訳 … **【食品】** 特売費・宣伝費減+8、物流効率化+8、その他△23

【医薬品】 固定販売費増△30、その他△8

2016年度 食品セグメント内 事業別計画



(単位:億円)

		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
発酵 デairy	売上高	2,697	+8.5% +211	2,534	Δ3.7% Δ96	5,232	+2.3% +115
	営業利益	240	+35.7% +63	207	Δ14.3% Δ34	447	+6.8% +28
加工食品	売上高	945	Δ4.0% Δ39	871	Δ6.5% Δ60	1,816	Δ5.2% Δ100
	営業利益	45	+29.4% +10	23	Δ8.6% Δ2	68	+13.6% +8
菓子	売上高	698	Δ0.4% Δ2	933	+3.3% +29	1,632	+1.7% +27
	営業利益	62	+136.0% +36	97	Δ3.4% Δ3	160	+25.7% +32
栄養	売上高	484	Δ1.6% Δ8	471	+1.6% +7	956	Δ0.1% Δ0
	営業利益	70	+26.9% +14	40	Δ2.2% Δ0	111	+14.4% +13

(注1) 下期計画は2016年5月11日発表

(注2) 通期計画は2016年11月9日発表

2016年度 食品セグメント内 事業別計画

(単位:億円)

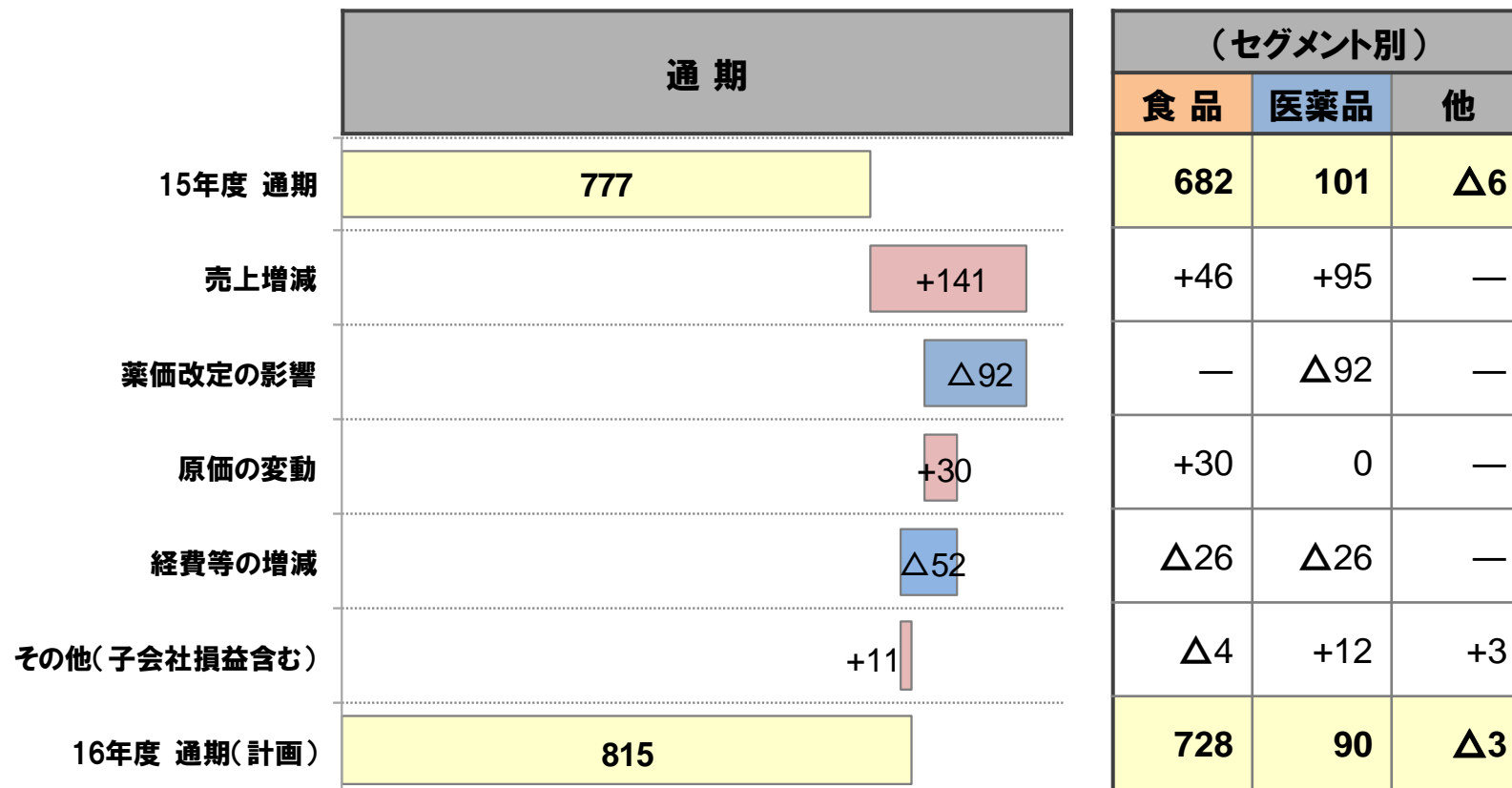
		上期		下期		通期	
		実績	前年同期比	計画	前年同期比	計画	前年同期比
その他	売上高	1,784	+4.2% +71	1,824	+2.5% +43	3,609	+3.3% +114
	営業利益	25	+117.1% +14	21	+2.9% +0	46	+45.0% +14
全社費用 消去および	売上高	△1,258	— △50	△1,200	— +67	△2,459	— +17
	営業利益	△56	— △37	△49	— △14	△105	— △52

(注1) 下期計画は2016年5月11日発表

(注2) 通期計画は2016年11月9日発表

2016年度 通期営業利益 増減分析

(単位:億円)



旧容器

(1000mL)

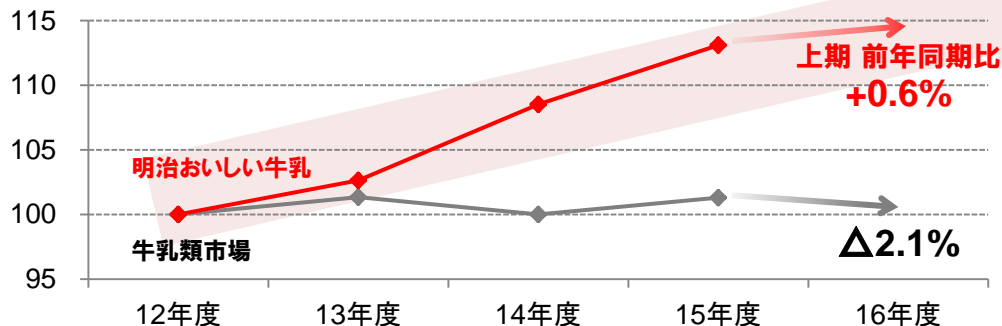


新容器

(**900**mL)

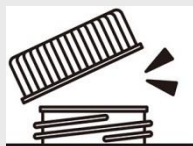


12年度を100とした場合の市場と当社売上高の伸長
(金額ベース)



- 9月より九州地区で発売開始
- 新容器製造のため、九州工場に1ライン新設 (投資額 約6億円)
- 今後、段階的に全国展開予定

【新容器の特長】 利便性とおいしさがアップ



- ・ リキャップ可能
- ・ 横幅を小さくし、持ちやすいフォルム
- ・ 人口動態、飲用実態に合わせた容量
- ・ 遮光性に優れた容器素材でおいしさが長持ち

1. 統合失調症治療薬「シクレスト」

即効性が期待でき、統合失調症
急性期の新しい選択肢となる新薬

(5月発売)



市場

- ・ 統合失調症治療薬市場：約1,900億円
- ・ 競合品のジェネリック化が進んでいる

製品の特長

- ・ 吸収が早い速崩性舌下錠
- ・ 既存薬とは異なる薬理プロファイル
- ・ 良好な有効性と優れた安全性
- ・ 初回投与量から維持用量での治療が可能
- ・ ピーク時売上高見込み：385億円(薬価算定時)

2. COPD治療薬「ウルティプロ」

7月に日本国内の販売権を承継

市場／
製品の
特長

- ・ COPD治療薬市場：約330億円
- ・ 即効性、持続性が高い
- ・ ピーク時売上高見込み：180億円(薬価算定時)



3. アレルギー性疾患治療薬「ビラノア」

下期発売予定(大鵬薬品工業との日本国内共同販売)

市場／
製品の
特長

- ・ 抗アレルギー剤市場：約1,650億円
- ・ 世界70か国以上で発売
- ・ 眠気が少なく安全性が高い
- ・ ピーク時売上高見込み：195億円(薬価算定時)